

研修で  
学校が  
変わる

# 中堅教諭等資質向上研修⑤ 人権教育主任研修② まとめ



令和3年10月21日(木)

Web会議による遠隔研修(各校)

## 「いじめの未然防止と早期発見に向けた取組」

講師 藤井 和郎 氏(吉備国際大学 教授)

### 【研修のねらい】

■いじめ問題の現状と対策について理解し、各校におけるいじめの未然防止に活かす。

子どもたちのいじめ問題の現状  
H24以降増加(特に小学校で急増)

「いじめ」を正しく認識し、いじめが起こりにくい・阻止できる環境づくりが必要

### いじめ集団の四層構造

被害者  
加害者  
観衆  
傍観者  
暗黙の支持(仲裁者を含む)

いじめる側の子どもの支援 心のケア

### いじめの発生要因

- ・個人要因
- ・家庭要因
- ・学校要因

### いじめの対応の〈大前提〉

いじめられた子(被害者)を守ること

人的関係のないところにはいじめは起きない

はずんだ人間関係の中で発生する

- ・援助希求キャッチ能力の育成
- ・SOSの受け止め方教育の推進

教師の姿勢が大きく影響!

キャッチ

### いじめ進行3段階

- ①孤立化
- ②無力化
- ③透明化

### ネットいじめ

教師や親は発見できにくい  
↓  
傍観者の指導・支援  
いじめアンケートと学校環境適応感尺度「アセス」の活用

心理教育プログラムを通じて教師の意図的な関わりを仕組む

子ども: 「援助希求能力」「援助希求伝達能力」の育成  
教師: 「援助希求キャッチ能力」の育成

### ～ 明日への想い(受講者の声)～

- ・相談したらなんとかなるという「援助希求能力」を育てることが大切だと分かった。日頃から子どもたちと会話し、どんなことに悩み、楽しいと感じているのか興味を持って聞き、どんな些細なことでも丁寧に対応していきたい。
- ・いじめアンケートの機密性については、高学年になる程考えておかねばいけないと感じた。また、いじめる側の児童への関わり方も、担任だけでなく、誰がどこでどのように関わっていくのかがいいか、チーム編成していくことが必要。
- ・いじめの現状を知り、よりいじめの状況が悪化していることを強く感じた。「いじり」は「いじめ」であり、大人たちの社会でも存在することを

多くの人が認識して考え方を変えなければならない。アセスの結果を活用し、いじめの未然防止につなげたい。

- ・子ども達がSOSを出せる「援助希求伝達能力」を育てると共に教師は受け止める「援助希求キャッチ能力」を身につける必要があると感じた。親身になって考え、取り組まなければならない。アンケートの実施方法や、面談の仕方、いじめ防止や指導の仕方などを見直しながら、いじめ根絶を目指して取り組んでいきたい。
- ・年度当初は人とあまり関わる必要を感じない人間関係の学級「集合」を、年度末には一人一人が認められる温かな学級「集団」にしていきたいと強く感じた。そのための仕掛けを丁寧に積み上げていきたい。